

大網白里市の歴史

1. 武士が世の中を治めたころ、このあたりは千葉氏によって治められていました。その後、士族に城を築いた酒井氏が治めるようになりました。酒井氏はすべての寺を日蓮宗に変えさせました。



2. 酒井氏が滅びた後、この地域に「檀林」とよばれる、日蓮宗のお坊さんの学校がいくつか開かれ、全国からお坊さんが集まって勉強していました。小西や宮谷、細草の檀林が有名です。



3. 今から390年ほど前、徳川氏が江戸に幕府を開くと、この地方のほとんどは、天領として直接幕府におさめられました。



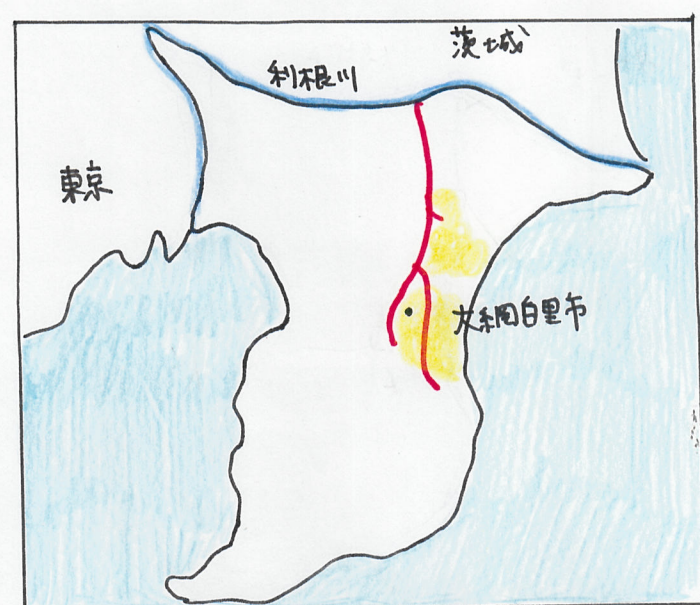
5. 明治のはじめごろから昭和26年まで、大網白里市は、大網・山辺・大知・瑞穂・増穂・福岡・白里の7つの町村に分かれていました。



6. 昭和26年、大網町に山辺、瑞穂の2村と大知村の一部が合併して大網町となり、昭和29年に大網町に増穂村、白里町と福岡村の一部が合併して大網白里町になりました。その後、平成25年に大網白里市になりました。



出典「わたしたちの大網白里町」



両総用水は、利根川から一宮川まで約78kmにわたる幹線。毎年約15kmからなる。

特産品

イワシのゴマ漬け



カタクタイワシとゴマ・シソが、トウガラシとともに酢に漬けたものだもの

真紅の美金



大網白里市が奨励のイチゴ

ハマグリとながらみ



ハマグリは「九十九里」はまぐりとして、4葉ブランドで産物に登録。



宮谷ハ幡宮

土気城主の酒井氏が、1488年に鬼門除けとして築いた神社。神社の後ろには三つの小さな社があり、真ん中に彦田別命、右に天照大神、左に春日大明神がまつられている。



春は桜並木がきれいです



春日大明神



おみじはかわいい小鳥

日立航空機大網地下工場

戦争時、空からの攻撃をさけるために地面の下に作られた工場。飛行機の部品を作っていた。



宮谷ハ幡宮から見た駅方面の景色

宮谷県庁跡/本國寺

県指定文化財



104段の石段を登ると本堂に。



石碑から当時の歴史を感じます。

鎌倉時代のころに建てられ、真言宗から法華宗に改宗した。明治のはじめ、「宮谷県」という小さな県があり、本國寺は県庁として使われ、上総・安房・常陸の一部をまとめていた。



県指定文化財

木造日蓮聖人坐像

実物の法衣と袈裟を着た像。地元では古くから五徳豊饒の恵みをもたらす像として「雨乞祖師」とよばれ、信仰を集めている。



※通常は公開されていません

前島池

昔の人たちが、道の安全を願って作った神様



上総十ヶ寺の一つで、約480年前につくられたお寺。徳川家康からお寺の土地をもらった記録が残っている。明治2年に一時的に大網藩の陣屋が置かれた。

両総用水

水が足りなかった地域に、利根川から水運ぶために作られた大きな用水路。



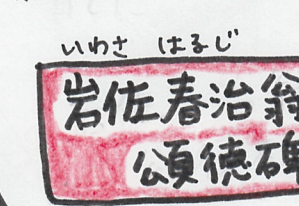
明治33年に鉄道が開通し、独立した台地に。



大網中学校

大網高校

千葉県の消防の父とよばれた岩佐春治は、大網消防の組頭を23年間務め、県下一の消防組に育った。



いわさ 春治 公徳碑

蓮照寺

山号は「宝珠山」



「要害山」とよばれ、まわりより高いところにある、敵から守りやすい場所だった。土気城主だった酒井氏の家来、板倉氏が住んでいた城と言われていた。

旧千葉銀行大網支店

大正10年ごろに建てられた銀行の建物。昭和45年まで「銀行」として使われていた。



現在は専売海軍倉庫

国登録有形文化財

旧大網駅

昔の大網駅があった場所。今は公園になっていて、昔の信号機が残っている



腕木式信号機

大網城跡

昔のお城があった場所

大網白里市役所



県政発祥の地めぐりマップ



作：森順子